

海外運用の先駆者達 ~ 20 世紀に海外でアマチュア無線を運用した日本人達~

その 94 今回の記事は 1994 年のアフリカ 1994 年 (5)

「あの人は今 (第 19 回)」 JF1SAG 松岡良樹氏

JA3AER 荒川泰蔵

■今回の記事は 1994 年のアフリカ

今回は 1994 年の 5 回目ですアフリカですが、月刊ファイブナイン誌を主宰する JA1ELY 草野利一氏の同誌創刊 10 周年記念「インド洋ペディション」も含んでいます。昨年のモーリシャス沖での、日本の貨物船の座礁によるオイル流失で、美しい自然が破壊されていることに心を痛めています。尚、今月の「あの人は今 (第 19 回)」は、

J11HUC 池内修氏は、JICA でチュニジアに駐在中に、チュニジアで唯一のアマチュア無線局 3V8BB 局を開局した経験をアンケートで寄せてくれた (写真 1 及び 2)。「JA メンバーによって、3V8BB の開局にこぎ着けた。チュニジア通信省は、チュニジアの団体 (学校、青年の家など) のクラブ局に対して運用を許可するが、個人局 (外国人



写真 1. (左) J11HUC 竹内修氏達が立ち上げた 3V8BB のシャックと、(右) そのアンテナ。

を含む)、移動局は不可と言っている。外国人はゲスト・オペが出来る。運用したい局の責任者が許可すれば、その局の操作範囲内で QRV できる (今までに日本人、フランス人、ユーゴスラビア人、ドイツ人、ハンガリー人が運用)。ユーゴスラビア人 YT1AD 以外の QSO 分は JF2EZA がカードを発行している。しかし、今後どうなるか分からない。ゲスト・オペが増えた場合、各自が発行することになったり、一部チュニジア人から発行することになるだろう。各オペレーターの QSL インフォをしっかりと聞いてもらう必要がある。私の QSO 分は、全て

JF2EZA 小栗氏をお願いします。チュニジアでゲスト・オペなされたい方は、直接クラブ局へ連絡し、許可を得てください。運用の時に持って行くものは、パスポートのコピー、日本の免許のコピー、運用スケジュールです。現在無線機は 1 台しかありませんので、専有せず、うまく調整しながら運用されることを望みます。首都チュニスから車で 30 分 (タクシーで約 600 円) の町、Bri-El-Bey にあります。チュニジア観光のおまけに、ここから QRV すると思います (現在 3V8BB しかありません)。(1995 年 8 月記)

REPUBLIQUE TUNISIENNE MINISTÈRE des COMMUNICATIONS Direction Générale des Télécommunications		L I C E N C E	
POUR L'ÉTABLISSEMENT & L'UTILISATION D'UN RESEAU DE STATIONS RADIOELECTRIQUES			
Licence N°: 6001		INDICATIFS D'APPEL	
DEMANDEUR ou PERMISSIONNAIRE : INSTITUT SUPERIEUR DE LA JEUNESSE		FREQUENCE & PUISSANCE MAXIMALE D'ÉMISSION :	
ADRESSE : BIR EL BEY VILLE : HAMMAM-LIF CODE POSTAL :		3.8000 MGH 7.0000 14.0000 21.0000 1.8000	
SERVICE UTILISATEUR : INSTITUT SUPERIEUR JEUNESSE/BEN AROUS		28.0000 144.0000 430.0000	
OBJET des ÉMISSIONS : RADIOAMATEUR (BANDES AMATEURS) 3V8BB		100.000 W	
RESPONSABLES : KHELIL GUEZGUEZ		CLASSE d'ÉMISSION :	
TELEPHONE :		TYPE D'ANTENNE :	
NOMBRE, 01 STATION RADIOAMATEUR RESIGNATION, BIR EL BEY DU ou ZONE D'UTILISATION des STATIONS :		OMNIDIRECTIONNEL	
OBJET des MODIFICATIONS : (Nombres de stations, Transfert temporaire ou définitif, etc.)		TYPE DE MATERIEL :	
NILE LIAISON		YAESU /ICOM	
		NOMBRE de LIAISONS :	
		DATE d'APPLICATION :	
		DU 01/09/94 AU 31/12/94	
Tunis, le 16 SEP. 1994			
Le Directeur Général des Télécommunications		Le Sous-Directeur des Affaires Juridiques	
Signé: Mohamed LAARIF			

写真 2. J11HUC 竹内修氏達が立ち上げた 3V8BB の免許状。

■ 1994 年 (モロッコ CN8TM, CN8MC)

JR2ITB 森猛氏は JICA でモロッコに駐在中に CN8TM の免許を得て運用したとアンケートを寄せてくれた (写真 3 ~ 5)。「青年海外協力隊員としてブルンジ (9U) へ派遣される予定でしたが、クーデターによりモロッコの漁業海運省に配属されました。免許手続きは王立アマチュア無線協会 (ARRAM) で行い、コールサインの発行は会長のムスタファ氏 (CN8MK) が行っているようです。私は彼と面談してコールサインがその場で決定しました。申請してからは警察の調査等の手続きがあり、地方に住んでいるため時間がかかりました。それでも 3 ヶ月ほどで取得でき、ARRAM の会員にもなりました。コールサインは以後ずっと使えると協会の人は話していましたが、終身という意味かどうか、再び来てみないと確認はできません。現在、無線機がないので入手に苦労しています。これはモロッコのハムにもいえることで、私の近所のハムもリグがないためにオンエアできず、リグを頼まれているくらいです。そのため運用は首都ラバトへ行った時に ARRAM の CN8MC を利用しています。7-28MHz と 144MHz が運用できます。8 月から開始して 9 月のヨーロッパコンテストに参加しました。来年 12 月までには個人コールで運用する予定です。PTT への申請は ARRAM で代行してくれたようです。また、CN8MC は無休で 8:00 ~ 18:00 まで運用できます。手数料は全部で 250DH でした。(1994 年 10 月記)」



写真 3. (左) 王立アマチュア無線協会 (ARRAM) の事務所にて、会長の CN8MK, ムスタファ氏と CN8TM 森毅氏。(右) CN8TM 森毅氏の免許状。

写真 4. CN8TM 森毅氏の QSL カード 2 種。

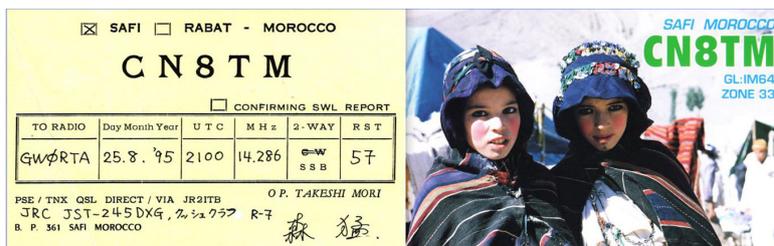


写真 5. (左)ARRAM のクラブ局 CN8MC のシャックにて、職員のカセム氏ご夫妻と CN8TM 森毅氏。(右)CN8TM 森毅氏の ARRAM 会員証。

■ 1994 年 (カナリア諸島 EA8/GWORTA/P)

JA3AER 筆者は休暇でカナリア諸島を旅行し、EA8/GWORTA/P を運用した記録を残していた (写真 6 ~ 8)。「1994 年 12 月 24 日から 29 日まで冬季休暇を利用して、家内 (JG3FAR) とロンドンの日通旅行社が企画したルックワールドに参加、カナリア諸島 7 島の内のグラン カナリア (Gran Canaria) へ出かけました。グループツアーと言ってもロンドンの空港で切符を渡され、着いた先の空港ではホテルまでの送迎バスが待っているだけの自由なツアーです。アンテナ (R5) は袋に入れ、電源 (PS-55) はトランクに入れて預け、トランシバー (IC-723) は機内に持ち込みましたが、セキュリティーや税関は全くフリーパスでした。しかし、その日フランスの飛行機がハイジャックされたとのニュースが流れ、帰りが必要以上に厳しくなるのではと心配しましたが、これも全くのフリーパスでした。ロンドンから約 4 時間で到着した空港には近代的で大きなターミナルビルがあり、その時点で航空機が 13 機も駐機しているのに先ず驚き、想像以上に広い幹線道路に多くの車、ラスパルマス (Las Palmas) 市内に入ると全く都会といった雰囲気は、想像していた島と大違いでした。地理的 / 気候的にはアフリカ、政治的 / 経済的にはヨーロッパであるこの島々、観光地の一端を少し覗いただけに過ぎませんが認識を新たにしました。ホテル (Melia Hotel) は 11 階建ての高層ビルですが屋上にはアンテナが建てられず、9 階の部屋のベランダから突き出したアンテナでの運用を余儀なくされました。CEPT ライセンスにより EA8/GWORTA/P で QRV しましたが、18MHz 以外は CQ を連発しても応答がなく、結局聞こえる局を呼びに回り 14MHz 及び 21MHz を含めて、オセアニアを除く 5 大陸の 20DXCC カントリーとの QSO にとどまり、残念ながら JA とは QSO 出来ませんでした。1980 年に米国から QSO して知り合った EA8NL, Severo の案内で、EA8 の連盟 (URE) を表敬訪問し、EA8URE の無線室からも QRV させて頂きました。また滞在最終日には、EA8NL, Severo とその友人達が、日本レストランに招待してくれました。(1994 年 12 月記)」



写真 6. (左)EA8/GWORTA/P の QSL カード。(右)ホテルの部屋で EA8/GWORTA/P を運用する筆者。

写真 7. (左)EA8 の連盟 (URE) 集會室で、前列左から EA8BIK, Marcos, 筆者, EA8NL, Severo, EA8BUW, Francisco, 後列の 2 人は EA8NL の 2nd で Betty と Roberto。(右) EA8URE の無線室にて筆者。



写真 8. (左)日本レストランにて、左から Roberto, EB8CGM, Carlos, EA8AYY, Hector, EA8IP, Antonio, EB8AOX, Antonio, EA8RT, Migul, 筆者。皆さんお箸を上手に使うのが自慢らしい。(右)寿司バーにて筆者の XYL(JG3FAR) と EA8NL の 2nd (Betty) さん。

■ 1994 年 (モーリシャス 3B8/JA1ELY)

JA1ELY 草野利一氏は、モーリシャスのポートルイスから、3B8/JA1ELY で運用した経験を、アンケートで寄せてくれた (写真 9)。「臨時免許を得るのに多大な時間と労力を費やした。相互運用ライセンスが無いので、3B8からは容易ではない。欧米人でも同じ。開局にはポリスの許可が必要との事で、現地の保証人がいないと、まず無理でしょう。D6/FH へのトランジットで寄った QTH なので、短時間の QRV であったが、80m ~ 15m までで 2,100 位 QSO できた。特に 80m では W6/7, 20 局を含む多数の JA と QSO できた。(1994 年 12 月記)」

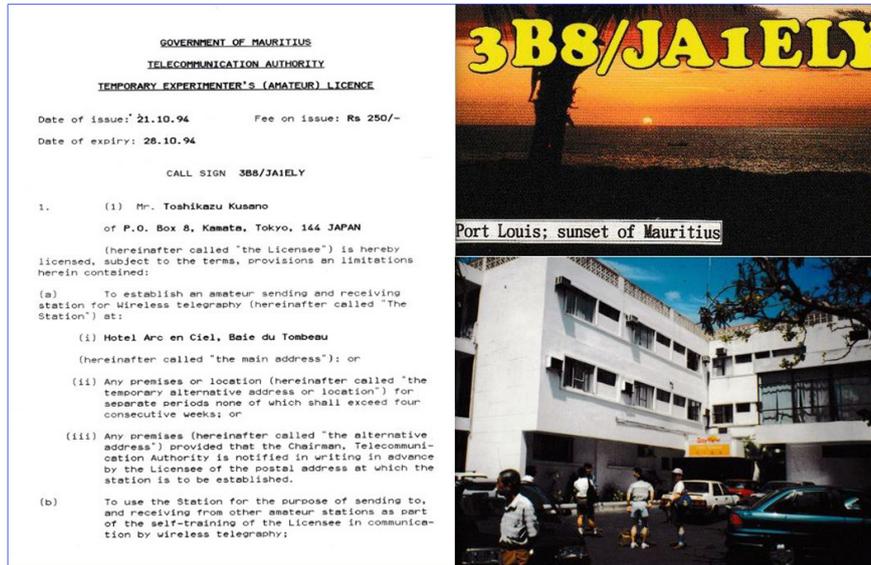


写真 9. (左)3B8/JA1ELY 草野利一氏の免許状と、(右上)その QSL カード。
(右下) 宿泊し運用したホテル。屋上に八木アンテナが見える。

■ 1994 年 (コモロ D68TK)

JA1ELY 草野利一氏は、コモロ共和国で D68TK の免許を得て、首都モロニから運用した経験を、アンケートで寄せてくれた (写真 10)。「4 人によるペディションで、主に 80m でのサービスを担当した。JA とは約 80 局と QSO できた。EU/W は 200 局。10 月 24 日 ~ 31 日までであるが、途中 26 日 ~ 28 日は FH に移動したので、実質は 4 日間です。コモロは火山島で、モロニは JA 方向が山となっていて NG なロケーションです。住民が少ない為か、治安が良く安心でした。英語は全く通じません。他のメンバーは、JA1IDY(D68TA), JA1ETQ(D68HS), JL1UXH(D68SY) でした。(1994 年 12 月記)」

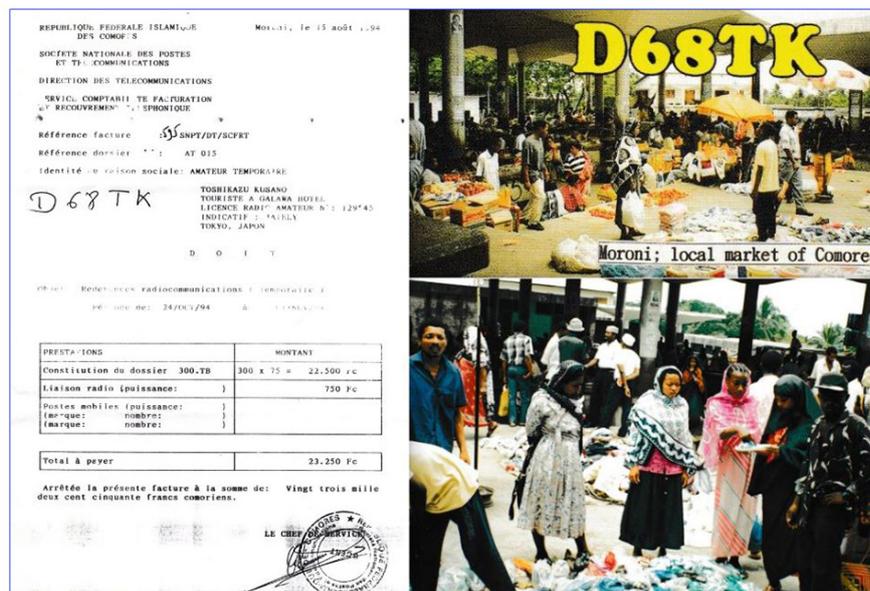


写真 10. (左)D68TK 草野利一氏の免許状と、(右上)その QSL カード。

■ 1994年(マヨツテ FH/JA1ELY)

JA1ELY 草野利一氏は、マヨツテの臨時免許を得て、FH/JA1ELY でマヨツテ島のザウジで運用した経験を、アンケートで寄せてくれた(写真11~13)。「4人のメンバーでQRVしたので、当局は80mメインで運用し、多数のJA/EU/Wの約200局とQSOできた。あと14MHzでSSTVを2局とQSOできました。多分、1st SSTVではないかと思います。ライセンスはフランスとの相互運用協定によるもので、フランスのPTTに申請して3ヶ月間の臨時免許を得ました。運用地のJA方向が海に面しておりFBであった。他のメンバーは、FH/JA1IDY 青山貞一氏、FH/JA1ETQ 佐藤寿男氏、FH/JL1UXH 吉村攝氏でした。(1994年12月記)」尚、JL1UXH 吉村攝氏

上記のマヨツテ、コモロを含む3エンティティからの運用を「インド洋DXペディション」として詳しく報告されています。ン」として詳しく報告されています。

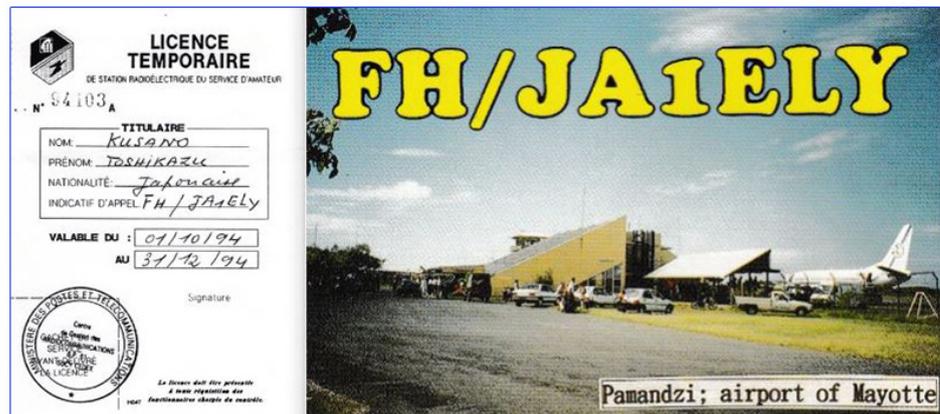


写真11. (左)FH/JA1ELY 草野利一氏の臨時免許状と、(右)そのQSLカード。

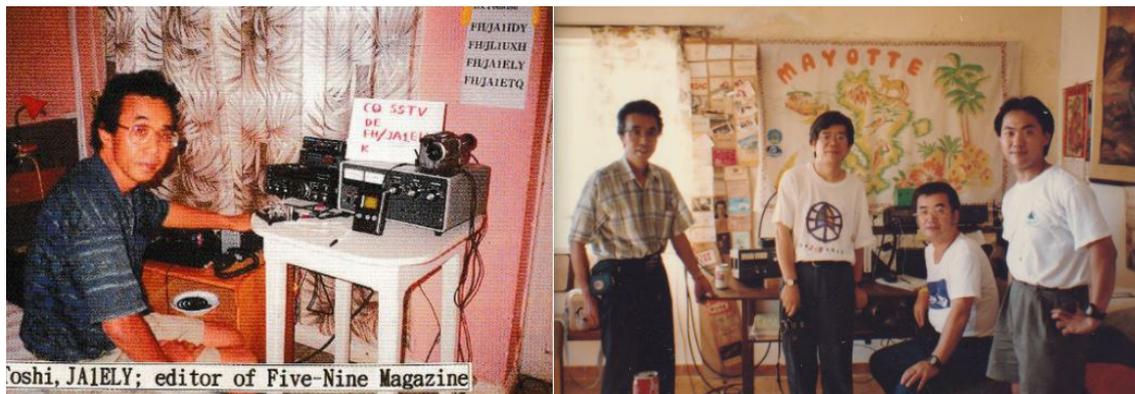


写真12. (左)FH/JA1ELYを運用する草野利一氏。(右)FH8CBのシャックを訪問した、左からJA1ELY 草野利一、JA1IDY 青山貞一、JA1ETQ 佐藤寿男、JL1UXH 吉村攝の各氏。

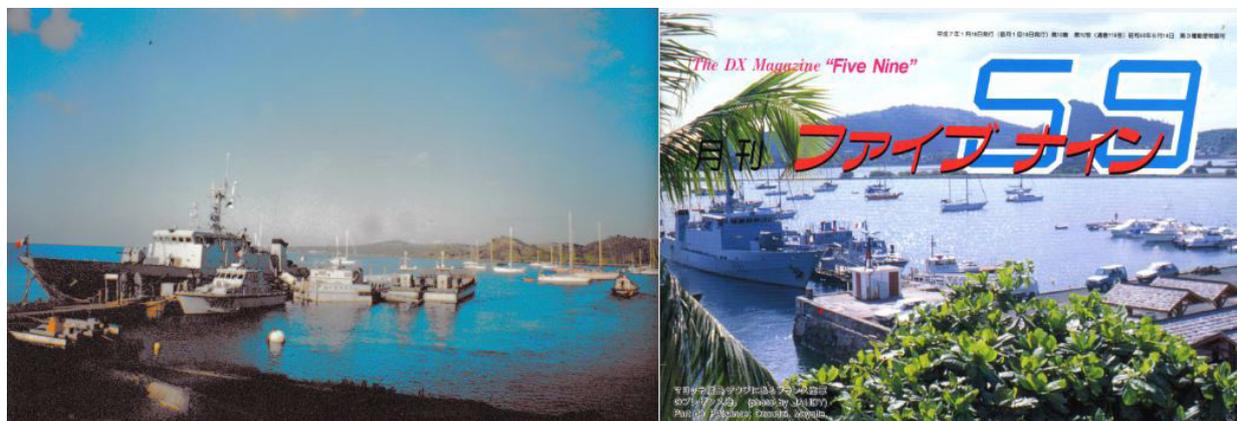


写真13. (左)マヨツテの港。
(右)月刊ファイブナイン誌1995年2月号の表紙に掲載されたマヨツテの港。

「あの人は今(第19回)」JF1SAG 松岡良樹氏

日本のメーカーの駐在員として、フランスで活躍された JF1SAG 松岡良樹氏の FE1MUY, FD1MUY, F/JF1SAG の記事は、(その 43) 2016 年 10 月号で紹介させて頂きましたが、その松岡氏から当時の思い出や、その後の経過を含めた近況をお知らせ頂きましたので、ここに紹介させて頂きます。「早いもので、記事にして頂いたフランス・アルザスに駐在中の運用から、既に 30 年以上が経つんですね。記事のお陰で若かりし頃の活動が、記憶以上に記録としても呼び戻しています。フランスのコールサインは FD5MUY から FE5MUY を経て現在では F5MUY をいただいています。自分のもう一つの名前のようで大切にしています。フランスの駐在を終えて日本に帰国した後、再度ハンガリーに駐在することとなり、また新しいコールサイン HA/JF1SAG で運用することになりました。またも現地のハム友人たちに支援していただき、東欧でのハムライフを楽しみました。DX サーとして有名な HA5DQ, Pista さんと共同の QSL カードを作ったのは楽しい思い出です(写真 14)。



写真 14. (左)F5MUY 松岡良樹氏の免許状。(右)HA5DQ, Pista さんと共同で作った HA/JF1SAG 松岡良樹氏の QSL カード。

オスカーを経由しての衛星通信では、スケジュールも組んでいないのに日本の親友からコールされたのも驚きの思い出です。現地のハムには SSTV に詳しい人もいて、指導していただいた後さっそくインターフェースを作って On Air しました。当時出始めたデジカメが大いに活躍してくれました。駐在の終了と共に、全ての Rig 及びアンテナとパソコンを現地に残して来ました。今も誰かに使われていると嬉しいのですが、日本に帰国してからは大きなアンテナも立てることが出来ず、ベランダに設置したパラボラアンテナで気象衛星画像の受信を始めました。気象衛星信号の受信は 50 年も昔にさかのぼり、大学の卒論研究がその最初でした。インターネットもパソコンも無い時代に宇宙から送られてくる信号をデコードするのは一苦労であり、楽しいものでした。そしてついに現役時代を卒業し、無事に引退生活に入りました。パソコンと戯れ、無線も復活し、アンテナの試作やデジタル通信で毎日を過ごしております。コロナ対応での自宅待機期間中にはマイクロバートアンテナなるものを見つけて、ベランダから僅か 1.5m のエレメントで 80m バンドや 40m バンドの電波を発射しています。安価なスペクトラムアナライザやネットワークアナライザが、試作実験を豊かにしてくれています。残りの人生は、やりたいことをどんどん実行して、悔いの無い終活を目指しております(写真 15)。(2020 年 6 月記)」



写真 15. (左)シンガポールのジップラインにて、お孫さんと JF1SAG 松岡良樹氏(2020 年 2 月)。(右)JF1SAG 松岡良樹氏の最近の QSL カード。(右)JF1SAG 松岡良樹氏の最近の QSL カード。